



4つ葉通信



宮下ゆみこ後援会便り

第1号

みなさん、お変わりありませんか

雪が少ないと自由な時間が増えて、気持ちも暮らしも余裕がでますね。今年の春はいつもより軽やかな気分です。みなさん、いかがお過ごしですか？

後援会のみなさんには、いつも大変お世話になっています。昨年秋に一時体調を崩した私ですが、今はすっかり元気になって、これまでよりも多方面に高いアンテナを張り自由闊達に活動しています。また、稼業の農業も春を迎えて本格的に動き出しました。充実した毎日を過ごしています。

そんな私の最近の活動や考えを「後援会便り・4つ葉通信」にまとめました。感想などお寄せいただければ嬉しいです。

この半年間の活動

《月形町内での活動》

議員でない今も月形町の未来が気になります。上坂町政になってからの月形町議会は欠かさず傍聴し、議員懇談会や町政懇談会にも参加、創生総合戦略審議会や総合教育会議なども傍聴して、町内の最新情報や課題を集めています。また、日赤奉仕団に入団しました。身近な奉仕活動を通して暮らしの変化を感じたいと思っています。

《自治関係の活動》

昨年12月に見聞を広める旅をしました。広島県竹原市では「まちづくり活動」関係者を訪ね、京都府南丹市では市議会の様子を調査、大阪府大阪市では議会事務局研究会で発表後に現地視察、三重県津市では県議会図書館や議会事務局の視察と常任委員会傍聴、千葉県山武市では4町合併後を視察、栃木県鹿沼市では市議会ケーブルテレビ放送を調査、東京都足立区では区議会特別委員会を傍聴してきました。

この旅では全国の仲間にお世話になりました。インターネットや勉強会で知り合い、情報発信や

意見交換で関係を深めた仲間です。仲間を頼って現地を訪ね、いっしょに見て回りながら様々な違いを感じる…。行動することで新しい世界が広がっていく素敵な体験をしています。

この他にも恵庭市議会（一般質問）の傍聴や、JR問題の情報収集、北海道自治体学会や土曜講座の企画運営などもしています。

《農業関係の活動》

全道各地の魅力的な女性農業者とのつながりが広がっています。時代を引っ張る先駆者からバリバリの若手まで、個性的でアイデアあふれる仲間たちが元気と勇気を与えてくれます。女性農業経営者、女性農業後継者、女性新規就農者、女性農業委員、女性農協理事…たくさんの女性が全道各地の農業分野で活躍しています。あえて「女性」とつけたのは、男性社会の中に女性が進出している現実を示したいからで、「男性社会の最後の砦」と言われる北海道農業界においても、女性の進出はめざましいのです。

■ 新規就農者用実習農場の新築移転は必要なのか？

《この予算はどういう意味？》

実習農場を整備する計画があることを初めて知ったのは、2月20日開催の「月形町創生総合戦略審議会」を傍聴したとき。委員から質問が出ましたが詳しい説明はありませんでした。

3月15日、月形町議会・予算特別委員会の傍聴で初めて予算書を見たとき「新規就農実習農場整備事業 研修棟及び農地造成工事設計業務500万円」に驚きました。設計に500万円？それも財源は町債（借金）??

《これが新しい実習農場計画の全容！》

幸いにも私と同じ感想を持った議員が何人も

これが新しい実習農場計画の全容！

【建設場所】

北農場／みのり工房裏手の町有地（7,500㎡）

【建物】

- ・鉄骨2階建1棟（のべ床面積265㎡）
- ・1階（車庫、倉庫、作業場）
- ・2階（1家族用住居）
- ・設計費：337万2千円
（構造計算必要+起債事業→設計を外注）
- ・予定建設費用：4,000万円
- ・1mの土盛りをして建設
（敷地内の砂利混土を利用）

【造成農地】

- ・6,000㎡（6反）
現在の実習農場の半分の面積
- ・農地には暗渠と客土（50cm）を行う
- ・造成予定費用500万円

【実習農場移転の理由】

麻生にある今の実習農場は土地が低く、作物が上手く育たない。土地改良のためには町道と同じ高さまで畑の嵩上げが必要で、費用は2,700万円。住宅が古く、建て替えに2,500万円。再整備には合計5,200万円必要なので、北農場への新設移転費用（4,500万円）の方が安い。

快適な土地と住宅を整えることで新規就農者を増やしたい。この事業は地方創生事業の1つとして、審議会でも了承されている。

いて活発な質疑が行われ、明らかになったのが左下図の内容です。

《私には疑問だらけの計画内容》

質疑と答弁の間、傍聴席からツッコミを入れたくて、入れたくて…。実習農場の土地改良に町道まで嵩上げ？（何m客土するの?! 普通は明渠で対処するでしょ）。快適な住宅と土地？（実習農場に住むのは長くて3年。そのあと就農するとき新築住宅や整った土地なんてないよ〜）。みのり工房裏手に移転？（実習中はたくさんの人に見守られて地域に馴染んでいく大事な時期なのに、誰も来てくれないじゃない）…

私は北海道農業公社の就農アドバイザーとして関係機関等とも情報交換していますが、町側の説明を聞く限り、月形町は今どきの新規就農者事情を全く理解していないと感じます。国の補助制度が整ってきた現在は農業法人に就職する人が増えていますし、魅力的な指導者を頼って実習に入る人も多く、以前にも増して人とのつながりが重要になっているのです。快適な住宅や農場は決め手にはなりません。

もし新規就農者を増やしたいなら、就農までの様々なサポート（栽培技術、営農方法、暮らし方…）の体系化や、実習生受け入れ可能な農業法人の育成に力を入れるべきです。月形町には定着している先輩就農者とそれを支えてくれた組織や地域の力があるのですから、事例と実績を活用すればいいと考えます。

《議決を骨抜きにする町長の提案》

議場では、詳細な内容が明らかになるほど議員から疑問の声があがり、最後には上坂町長が「JAや各生産組合から新規就農対策をしっかりとやって欲しいと要望があり計画した。人口減少対策、地方創生、選挙公約などから、1日も早い予算化を指示した」と答弁しました。この事業は、執行方針にも記載されている平成29年度の目玉事業の1つなのです。

上坂町長は「検討や説明が不十分であったこ

とをお詫びする。これまでの議論からこのまま事業を進めるのは難しいと判断した。予算をすぐに実行することはない。議員のみなさんとじっくり話し合い検討した後に結論を出すので、予算はこのまま認めていただきたい」と提案して個別審議を締めくくりました。

《町長に下駄を預けてしまった議会》

町長からの提案で議会は納得し、予算は原案通りに可決されました。議会は、あれだけの追求をして問題点をあぶり出しながら、問題のある予算を認めない権限を持っていながら、町民に公開し説明する責任を持ちながら、最後は町長に下駄を預けてしまったのです。

この件は、予算特別委員会・個別審議の傍聴で知ることができましたが、総括質疑も討論も予算修正もないために、議会だよりも公開される議事録にも町報にも何一つ載らないのです。

■ 今求められているのは、月形町が不利益にならない契約

《月形町の契約方法に疑問と不安》

現在、私は【平成 26 年度と 27 年度の認定子ども園開設準備事業（業務委託）】について、月形町で初の住民監査請求を行っています。これは議員時代から疑問を持って調査してきた案件で、以前、情報公開請求で黒塗り資料が開示されたアレです。

私がこの事業を 3 年間も調査し続けているのは、月形町の契約方法に疑問と不安があるからです。一昨年追求した「塵芥収集及び衛生センター管理業務／一者特命随意契約」もそうでしたし、まさに今、月形温泉ホテルの委託業務も問題がありそうです。

温泉ホテル（ホテル・温泉・はな工房）は昨年度から月形町振興公社が指定管理者となり、その人材管理部門（採用・教育・配置）を町外民間会社に委託しました。当初、人件費総額として 5,000 万円を見込んでいたものの町内で人を確保できず、遠隔地からの採用や人数と単価の増で 6,000 万円かかったとのこと。そこに集客減や収入減が重なって、年度末には町か

問題のある予算が提案・承認されていたことから町民には知らされないのです。さらに悪いのは、承認された予算は議会の表舞台で吟味されないことです。これから先の展開は町民の見えないところで動いていくのでしょうか。

《私たちにできること》

実習農場整備事業は予算が通ったとは言え、これから始まる事業です。町民が関心を寄せることでより良い形に変えられるかもしれません。身近な議員に質問してみましよう。

同様に、町立病院の経営や J R 札沼線存続問題も月形町が今抱えている大きな課題です。町民が何も知らないうちに物事が決まってしまうことに疑問を感じていませんか？

町政は町民が主役です。町民に隠し事はいけません。町と議会には、情報公開と真の町民参加を求めていきましょう。

ら振興公社に 2,000 万円の赤字補填をしました。委託業者との契約は「人件費の 15%」だったため、温泉経営が赤字にもかかわらず 750 万 → 900 万円を支払うことに。人件費がかさむほどに業者の手取りが増える仕組みは疑問です。経営不信のときこそ人員配置の見直しや経費削減などで効率化するのが一般的な経営体なのですが…。

《契約技術と透明性の向上を》

月形町はこれまで、町内業者を中心に様々な契約をしてきました。曖昧な契約書であっても気心の知れた関係で対応できたのでしょうか。しかし町内に請け負える業者が減ってきた今、町外業者との契約も増えてきました。契約書に添った厳格な運用が日常的になり、契約内容によっては町側が一方的に不利益を被る可能性もでてきたのです。

住民監査請求を通して月形町の契約技術が向上するとともに、誰もが検証できるように透明性が高まることを願っています。

■ ファイターズ応援大使を活かすには

《二人の活躍を応援したい》

今年の明るい話題は、北海道日本ハムファイターズの大谷選手と新垣選手が月形町の応援大使になったことでしょうか。二人ともケガで戦線離脱しているとは言え、プロ野球シーズンの開幕で一層盛り上がっています。パネル展示やグッズ製作、キャンプ見学やドーム戦招待など、スター選手のおかげで話題に事欠きません。

ただ、どれも応援大使制度によって“与えられた恩恵”に頼っているだけのようで、ちょっと気になります。せつかなら応援大使の本業（＝プロ野球のプレー）を月形町として応援し、結果として「町の PR」や「交流人口増」につなげていければと思うのです。

《月形米でインパクトのある応援を》

例えば大谷選手。二刀流が代名詞なので、打者としても投手としても応援したいですね。ホームランを 1 本打ったら月形米 1 俵（60kg）、三振を 1 つ奪ったら月形米 10kg を贈呈するのはどうでしょうか。毎試合の成績が気になるのはもちろん、活躍する度に積み上がっていく米袋を想像しながら応援するのは楽しく、実際に模型を積み上げていったらなお面白い、きっと話題になるでしょう。

■ 50 歳

私は先日 50 歳になりました。50 代の始まりは自由で開放的な気分です。

昨年秋から環境が変わり、見える世界も心の持ち方も変わり始めました。さらに年齢を重ね 50 代になったことで、自分にはめていた無意識の枠を外すことができました。

やりたいことはやり尽くそう。会いたい人には会いに行こう。言いたいことは恐れず言おう。

宮下ゆみこ 50 歳、これからもよろしくお願ひします。



4つ葉通信（宮下ゆみこ後援会便り）第 1 号

発行日 2017 年 4 月 20 日 発行人 宮下裕美子

〒 061 - 0512 月形町市南 1 電話 / FAX 0126 - 53 - 2611 携帯 090 - 7646 - 3837

テレビ電話 76-1019 Eメール yumiko3@mac.com ホームページ <http://www.yumiko3.net>